

富岡製糸場と周辺関連施設の樹木・草花調査 PART 2

群馬県立富岡実業高等学校 生物生産科草花部

新井 昌澄・今井 琢磨・大塚妃奈乃・大塚 萌愛・角倉 美結・上條 凱瑛・
佐藤 歩・佐藤 楽・中島 陸・吉田かりん（以上2年）

昨年度に引き続き富岡製糸場内や周辺の樹木・草花について種類や樹齢などを調査した。今年度は、特に退職記念などの記念樹について調査し、観光資源として検討した。

また、高山社跡について樹木・草花調査を実施。歴史における植物の役割や植物資源の再発見を目指した。

富岡製糸場・高山社跡の調査結果をまとめ、それぞれパンフレットにして地域住民や来場者に対して新たな魅力を伝えるためのPR資料を作成した。

1. はじめに

私たち富岡実業高校草花部は、平成18年より富岡製糸場内の花壇の植栽管理を実施している。春には赤いサルビアを中心に、秋にはパンジー・ビオラの植栽を行ってきた。活動の中で富岡製糸場内の樹木について興味を持ち、富岡製糸場の樹木・草花について調査研究することで富岡製糸場と樹木の関わりを学び、新たな観光資源として樹木を活用できないか考えた。



写真1：製糸場内の樹木・草花

2. 研究の目的

(1) 富岡製糸場の樹木・草花調査

昨年度の調査内容から富岡製糸場には植えられた時期や目的が様々な計500本以上、約70種類の植物が存在することが分かった。魅力的な樹木が多くあり、今年度は、特に退職記念などの記念樹について、時代背景と併せて調査したいと考えた。

昨年度は富岡製糸場内の全ての樹木・草花について調査し、分布図とパンフレットを作成したが、コロナウイルス感染症の関係からパンフレットを設置・配布することができなかった。今年度はパンフレットの設置・配布を行い、まとめたものを地域住民や来場者に見てもらうことで意識の変化も調査することとした。

(2) 高山社跡の樹木・草花調査

「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界文化遺産に登録された施設は、富岡製糸場の他に伊勢崎市の「田島弥平旧宅」、藤岡市の「高山社跡」、下仁田町の「荒船風穴」がある。富岡製糸場以外の絹産業遺産に目を向けたいと考え、今年度は、高山社跡の樹木・草花調査を計画した。高山社跡は、日本の近代養蚕法の標準「清温育」を開発した場・養蚕教育機関である。樹木などを調査することで歴史との関わりや時代背景を学び、新たな魅力を調査した。

3. 調査の方法

- (1) 調査場所 群馬県立富岡実業高等学校 富岡製糸場 富岡市立図書館
高山社跡 高山社情報館 藤岡市立図書館
- (2) 調査期間 令和3年6月3日～令和4年1月25日
- (3) 調査方法 ①富岡製糸場の現地調査

富岡製糸場へ何度も直接足を運び、現地調査を行った。富岡市富岡製糸場課の方から樹木について説明を受け、調査・研究目的であることから本来入れないところまで調査することができた。記念樹を中心に場内を回り植生を調査・記録した。(写真2)

②高山社跡の現地調査

高山社跡での現地調査を行った。はじめは、高山社についての歴史などを解説員の方から説明していただき、建物などの施設と樹木も見せていただいた。(写真3) この見学を基に、次の現地調査では、私たちから解説員の方へインタビュー形式で調査した。(写真4)

③書籍・文献の調査

富岡製糸場総合研究センターの方に樹木についての資料をいただき、図面と実際の樹木を照らし合わせた。また、富岡市立図書館から資料をお借りして、富岡製糸場の歴史や建物、樹木の植栽された時期について、全ての樹木の科名や特徴を調べ、データベース化を行った。

藤岡市立図書館では、高山社についての資料をお借りして高山社の歴史について調査した。高山社についての資料は富岡製糸場の資料と比較すると数が少なく、樹木や草花についての記述もほとんどなかった。(写真5)



写真2：製糸場内の現地調査



写真3：高山社情報館での講義



写真4：高山社解説員へインタビュー



写真5：書籍・文献の調査

④アンケート調査

富岡製糸場や富岡市内で、活動のまとめとしてアンケートを実施した。富岡製糸場の樹木に関することや観光目的として樹木への関心があるかどうか、コロナ禍での心境の変化など、アンケートを通じて調査した。

4. 調査内容

(1) 富岡製糸場の樹木・草花調査

①記念樹・記念植樹調査

富岡製糸場の富岡製糸場総合研究センターの方に樹木についての資料をいただき、図面と実際の樹木を照らし合わせた。昨年度の調査から総数約500本・70種類以上の樹木があり、市内でも有数の巨木や皇室関係者、記念事業や退職者等の記念樹・記念植樹が多く存在していることがわかった。(表1) 記念樹は、昭和40年代から平成にかけて植樹されており、すでに片倉富岡製糸所、片倉工業株式会社として操業していた時代のものである。昭和40年代頃から皇室関係者をご視察なさっていることからすでにこの時から歴史的文化的に重要な位置を占め、日本の産業を担ってきた経緯が感じられる。昨年度は皇室関係者の記念樹・記念植樹を調査したので、今年度は、記念事業や退職者等の記念樹・記念植樹について調査を深めることにした。

表1：富岡製糸場内の記念樹

1	サツキ	天皇陛下（親王時）ご視察記念	昭和42年
2	シダレグワ	大竹文明贈呈	昭和45年
3	シラカバ	上皇上皇后陛下（皇太子時）行啓記念	昭和44年
4	ゴヨウマツ	高松宮殿下御植樹	昭和45年
5	カンツバキ	秩父宮妃殿下御植樹	昭和46年
6	サルスベリ	日本近代発祥百年祭記念樹	昭和47年
7	フジ	真々田正男・佐藤幸治贈呈	昭和58年
8	クロマツ	常陸宮殿下同妃殿下御植樹	昭和58年
9	ツゲ	常陸宮殿下同妃殿下ご視察記念	昭和58年
10	コウメ	大澤和夫・斎藤正義記念樹贈呈	昭和62年
11	カキ・ナシ・リンゴ	田中貞夫定年退職記念	平成5年
12	ヒメコブシ	片倉上会第15回総会記念	平成6年
13	ラカンマキ	片倉上会第25回総会記念	不明

A シダレグワ〈大竹文明贈呈〉

昭和45年にシダレグワが大竹文明さんから贈呈されている。群馬県富岡市在住の大竹文明さんは桑の生産農家であり、現在も桑の苗木や桑の加工品を生産されている。群馬県で唯一の桑苗を育成している方で、富岡製糸場の桑とも、とてもつながりがある方だと分かった。

B サルスベリ〈日本近代発祥百年祭記念樹〉

昭和47年に日本近代発祥百年祭が行われた記念としてサルスベリが植樹されている。日本近代発祥百年祭とは、富岡製糸場の創設100年を記念した資料展「日本近代産業発祥100年祭」（富岡市主催、農林省・群馬県後援）として富岡製糸場で開催されたものである。上信電鉄では、記念切符も販売されていることから大変大きな行事だったことが感じられる。

C フジ〈真々田正男・佐藤幸治贈呈〉

昭和58年にフジが真々田正男さん・佐藤幸治さんから贈呈されている。記録は残っていないが、片倉工業社員の方が退職記念で植樹したものと推測する。

D コウメ〈大澤和夫・斎藤正義記念樹贈呈〉

昭和62年3月には、コウメが大澤和夫さん・斎藤正義さんから贈呈されている。こちらも記録が残っていないが、片倉工業富岡工場が昭和62年3月に操業停止していることから富岡工場から離れることを名残惜しんで記念樹を残したのではないだろうか。

E カキ・ナシ・リンゴ〈田中貞夫定年退職記念〉

平成5年にカキ・ナシ・リンゴの3種類の果樹が田中貞夫さんから贈呈されている。こちらも記録が残っていないが、定年退職記念との記載があり、工場は操業停止していることから富岡製糸場の維持管理をしていた片倉工業の職員の方が退職記念に残していったものだと考える。

F ヒメコブシ・ラカンマキ〈片倉上会総会記念〉

片倉工業株式会社の15回・25回の記念総会でヒメコブシとラカンマキが植樹されている。富岡製糸場を継続して操業し、操業停止後も富岡市に寄贈されるまでそのままの状態でも管理を続けた片倉工業の歴史として意義のあるものだと感じた。

②記念樹（果樹）の有効利用について

ここで紹介した記念樹のうち、コウメ・カキ・ナシ・リンゴは、現在も実を付けている。(写真6) 果実の利用ができないか製糸場課の方に相談したが、工業系の工場跡地に植えられていることもあり、食用の利用は難しいとのことであった。果樹類は来場者が入れない場所（女工館裏）にあるため、来場者からは分かりにくいですが、PRすれば製糸場東側の堀沿いなので季節を感じさせる樹木として来場者にも見てもらうことができると感じた。今後も調査を継続したい。



写真6：記念樹（果樹）の調査

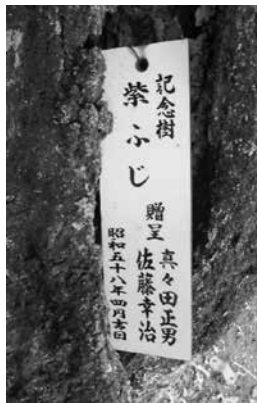


写真7：記念樹の表示

(2) 高山社跡の樹木・草花調査

富岡製糸場以外の絹産業遺産に目を向けたいと考えた。昨年度富岡製糸場で調査した樹木・草花調査を比較的富岡市から近い藤岡市にある「高山社跡」で実施した。高山社跡は、日本の近代養蚕法の標準「清温育」を開発した場・養蚕教育機関である。樹木などを調査して当時の様子と時代の変化を植物から感じ、多くの人に知ってもらうきっかけをつくりたいと考えた。

①高山社跡の調査 ～その1～

はじめに高山社跡について理解を深めるために、高山社情報館で講義をしていただき、高山社や養蚕の歴史等について学び、高山社跡において施設の見学を実施した。母屋兼蚕室の復原工事が行われていて、瓦を全て外していた。今しか見られない瓦を間近で見学することができた。高山社跡の敷地内にある樹木・

草花も紹介していただき、記録をデータベース化することができた。

②高山社跡の調査 ～その2～

その後の調査では、私たちの方から高山社跡解説員の方や高山社情報館の館長さんにインタビューするかたちで調査した。高山社跡に残る樹木・草花について調査した結果、分教場時代の高山家を描いた絹絵にも描かれている樹木が3本残っていることが分かった。この3本の樹木は、高山社跡保存木となっている。また、歴史を考える上で特に重要であるものや新たに植樹されているものについてまとめた。

A シロウメ (保存木)

母屋の脇にあるシロウメは、現在も3月に白い花を咲かせ、実を結実させている。バラ科サクラ属の落葉高木で、当時は、果実を利用する品種は「実梅」として利用されていたと思われる。

B クロマツ・アカマツ (保存木)

高山社敷地内の南西に2本並んで立つクロマツとアカマツ。樹皮の色で判別できる。共に日本を代表するマツでクロマツを「男松」、アカマツを「女松」と呼ぶ。樹勢が良く、高山社のシンボルとして注目した。

C ノムラカエデ

カエデ科カエデ属の落葉小高木で、オオモミジ系の園芸品種である。若葉のころから暗紫色で、夏には緑色を帯び、秋には紫紅色となる。春から紅葉するので来館者を楽しませる樹木である。また、ノムラカエデは、母屋前の中庭にあり、周りには多くの樹木が植えられている。調査したところ、高山社が廃校した後に高山家で庭園を整備したときに植えられたものと考えられていた。住宅として使用していた頃のもので園芸品種が多く植えられており、これも貴重な庭木であると考える。

D カキノキ



図1：見本桑園の品種配置

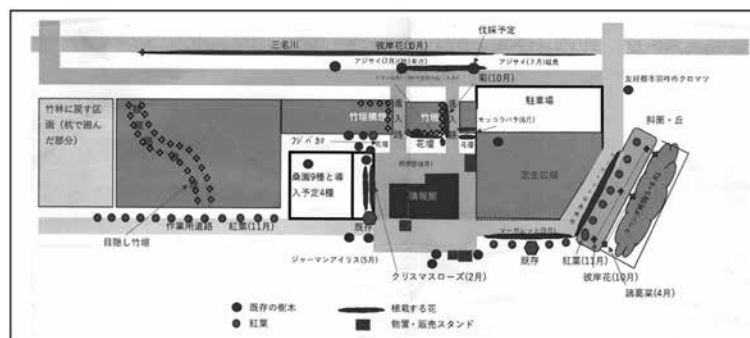


図2：高山社情報館周辺の植栽計画 (高山社情報館より)

カキノキ科カキノキ属の落葉樹である。高山社母屋裏に多数のカキノキが存在する。これは、この地域が高山社廃校後に、養蚕から柿生産に移っていったからである。高山家でも柿生産に取り組んでいたようだ。産業の移り変わりが感じられるものとして重要であり、現在も結実することから、有効利用を考えていきたい。

E ヤマグワ（大桑）

高山社敷地内の南東に1本だけ残ったヤマグワが存在する。このヤマグワは、高山社の桑園にあった桑が何らかの理由で残ったものだと考えている。現在では、とても大きなヤマグワになっている。この木には、カイコの近縁で野生種の「クワコ」が繭を作っており、観察することができた。来場者にもPRすべきことだと考える。

③高山社跡の調査 ～その3～

高山社跡を紹介する多機能ガイダンス施設である「高山社情報館」では、来館者を楽しませるためにいろいろな試みを行っていることが分かった。情報館西側には、見本桑園があり、多様な桑の品種をそろえていた。(図1) 高山社跡へ向かう遊歩道には、竹林が整備されている。藤岡市で有名なフユザクラや地元農業高校である藤岡北高校が植栽を行う花壇があることも分かった。また、季節ごとに植物(草花)を見られるように植栽を進めているところであった。観光客が定着するように、少しでも喜んでもらえるように取り組まれていることが感じられた。(図2)

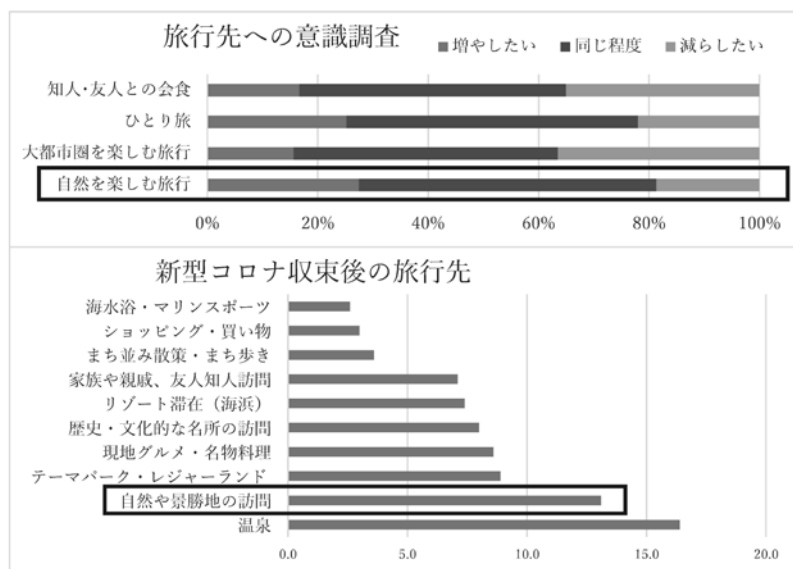
(3) コロナ禍における自然観光への意識調査

調査期間中のほとんどがコロナウイルス感染症の影響で活動制限されることとなった。そこで富岡製糸場と絹産業遺産群の観光目的として私たちが調査している樹木・草花調査の結果をPRすることで、コロナ禍・コロナ後に富岡製糸場と絹産業遺産群の観光客増加が見込まれるか調査した。

①JTBF 旅行者意識調査(2020年)より

旅行先への意識調査では、「自然を楽しむ旅行」や「ひとり旅」が旅行先として増やしたいと考えている人が20%以上いることが分かった。意識調査では、国外旅行に行きたいと考えている人は約30%で、約70%の人が国内旅行に行きたいと考えていることが分かった。コロナ禍で近場の旅行や人数・行き先など変化しているのが分かる。また、コロナ収束後の旅行先では、「温泉」や「自然や景勝地の訪問」を考えている人が多くいることが分かった。コロナ禍をきっかけに今後も旅行に対しての意識変化が考えられる。(表2)

表2：旅行者の意識調査 (JTBF 旅行者意識調査より)



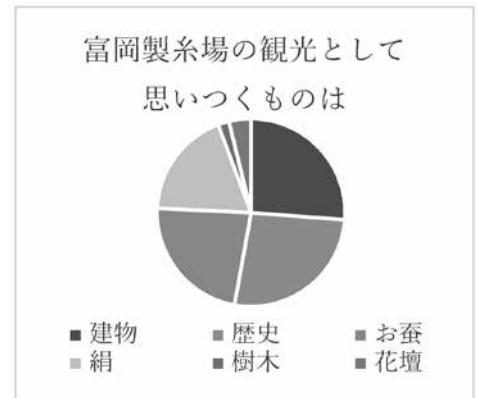
②アンケート調査

富岡製糸場において来場者・地域住民対象のアンケート調査を2回実施した。そのアンケートでは、延べ92名の方から回答していただいた。比較的幅広い年代の方が来場しているが、やはり、60代以上の方が多かった。アンケート結果から富岡製糸場の観光目的はやはり歴史や建造物、蚕や絹といったものが多く、自然や樹木を楽しむ観光意識はほとんどないことが分かった。(表3) うれしいことに富岡実業高校が花壇植栽を行っていることを予想以上の方に知っていただいていた。

このことから「富岡製糸場と絹産業遺産群」において樹木や草花についてPRすることで文化遺産としての魅力と自然観光としての新たな魅力をPRすることで観光客の増加・リピーターも見込まれると考える。

〈アンケート結果〉

表3：富岡製糸場の観光意識



富岡製糸場の樹木・植栽調査 意識アンケート集計結果						
性別	男	44	女	34	未回答	14
年代	10代	14	20代	6	30代	13
	40代	9	50代	14	60代以上	32
1、富岡製糸場の観光として思いつくものは何ですか。(興味のあるもの)						
	建物	55	歴史	56	お蚕	48
	絹	39	樹木	4	花壇	8
2、樹木や花壇を目的に、富岡製糸場に訪れることはありますか。						
	ある	17	ない	75		
3、富岡実業高校が富岡製糸場の花壇を、年2回植栽していることを知っていますか。						
	知っている	39	知らない	53		
4、樹木や花壇(庭園)を目的に観光をしに出かけることはありますか。						
	ある	59	ない	33		
5、現在のコロナ禍で観光先を選ぶときに、コロナ以前と比べ自然・環境を目的とした観光先は、変化しましたか。						
	増えた	26	変わらない	32	減った	22
6、私たちは、農業高校生の目線で、樹木や草花についてパンフレットを作成するなど新たな魅力を発信する活動を行っていますが、ご意見や感想などをいただくとありがたいです。						
<ul style="list-style-type: none"> ・今まで考えたことがなかったので感激しました。頑張ってください。 ・樹木に目を向ける機会になりました。これからも頑張ってください。 ・高校生がパンフレットをつくるのはすごい！がんばってほしい！ ・ガイドとして植栽(ピオラ、サルビア)感謝しています。 ・このような活動に感謝致します。 ・きれいな樹木を見ることができました。ありがとうございます。 ・いつも草花を植えてくれてありがとうございます。良い取り組みです。 ・今後も継続していただくとともに、活動していることを発信したら良いと思います。 						

5. 研究の成果

(1) 富岡製糸場の樹木・草花調査

富岡製糸場内の樹木・草花調査を昨年度から2年間継続して調査できたことで、いろいろな植物に目を向けることができた。昨年度の調査で富岡製糸場の樹木・草花についての調査結果をパネルやパンフレットにすることができたのだが、コロナウイルス感染症の影響で説明会やパンフレット配布ができなかった。しかし、今年度は、富岡製糸場にパンフレットを設置させていただくことができ、私たちの活動をPRするイベントも開催することができた。(写真8・9) アンケートとともに来場者の方から声をかけてもらうことができたのは、うれしいことだった。反応として「今まで考えてこなかった視点で面白い」「高校生がやっているのがすごい」等の意見をいただくことができたので、少しでも富岡製糸場の新しい魅力を発信する機会になったと考える。

(2) 高山社跡の樹木・草花調査

私たちは、富岡製糸場には馴染みがあったが、高山社跡は初めて行く人がほとんどだった。行ってみると高山社の歴史や建物をはじめ、樹木や草花など魅力的なものがたくさんあることが分かった。多くの人にまずは来て知ってもらうことが重要だと感じた。

今回は、高山社跡の樹木・草花について調査結果をパンフレットにすることができた。私たちが考える見どころを詰め込み、工夫された内容になっていると思う。調査の過程で高山社跡の方からいろいろなことが聞けてとてもやりがいを感じながら作成することができた。

高山社情報館では、樹木・草花を植栽して来館者に季節感を感じてもらえるように取り組まれていて共感する部分が多くあった。私たちにできることはないかと考えたところ、桑園の桑に看板がなく、品種名が分からないことから、看板作成を申し出たところ快く許可していただき、作成することができた。

施設の方々は、私たちの調査研究活動にとっても丁寧・親身に協力していただいた。このつながりも今回の調査で生まれた大切なことだと感じた。(写真10・11)



写真8：パンフレットの設置（富岡製糸場）



写真9：アンケート調査・花配布



写真10：桑の品種看板作成



写真11：高山社情報館にて

次世代に残す財産に！

富岡製糸場と絹産業遺産群として世界文化遺産に登録された高山社跡。廃校後も現在まで保存されてきました。高山社周辺の樹木は、少しずつ成長して姿を変えながら時代の変化を見守っています。その時代を生きだした人たちが目的を持ち植樹してきた樹木も未来に残す財産だと考えています。人間生活に欠かせない植物に目を向けて、保全や草花の植栽活動を今後も継続し、魅力的な財産として未来に残していきたいと考えています。

近くには、自然がいっぱい！

高山社跡周辺には、桜の名所である「二千階段」や冬桜が有名な「桜山公園」、約5000株のアザサイが咲く「八塩あじさいの里」、見事な藤棚の「ふじの咲く丘」など1年を通していろいろな植物が楽しめる名所がたくさんあります。知っている樹木や植物も多いと思いますが、新しい発見も待っています。





● 樹木探しにチャレンジ!?

①当時のヤマグワガ一本残っている！
～カイコの近縁種のクワコが
繭を作っているかも～

②秋にはギンモクセイの香りが！
～ちょっと控えめな愛らしさ～

③昔は生活に利用されてきたシュロ！
～シュロ縄など使い道が沢山～

④大きなビワの木が二本あるよ！
～おいしい実をつけるよ～

高山社跡付近にあります。
全部見つけられるかな！

高山社の樹木・草花

**高校生が伝える
自然の魅力**

 **群馬県立富岡実業高等学校
草花部**

私たち富岡草花部は、富岡製糸場の花壇植栽などを通して地域活性化運動をおこなっています。

〒370-2316
群馬県富岡市富岡451
電話 0274-62-0690
Fax 0274-62-3485
URL www.nc.tomilitu-hs.ssn.ed.jp
Mail tomii@tsu-hs@edu-g.ssn.ed.jp

ご意見・ご感想お待ちしております。

写真提供：藤岡市・高山社跡 作成：富岡実業高校 草花部

高山社情報館

高山社跡を紹介する多機能ガイダンス施設。高山社の組織と養蚕について学べる施設です。情報館の隣には見本農園があり、いろいろな品種の桑が植えてあります。高山社跡へ続く遊歩道には竹林が広がり、その他にも冬桜・彼岸花・紫陽花などが植え付けてあり1年を通して自然を楽しめるようになっています。藤岡北高校の生徒が植栽している花壇にも注目！

高山社情報館から高山社跡へ



高山社跡 樹木・草花の見どころ！

当時の錦絵と現在の様子を比べて見ると変わっていないところがたくさんあります。今回は、樹木や草花などの自然について目を向けてみてください。新しい発見があるかもしれません。



白梅

今も実を付ける白梅の木。当時から残る保存木に指定されている。

柿の木

多数の柿の木がある。この地域は、養蚕から次第に柿生産に変わっていった。時代の変化が感じられる。

黒松・赤松

立派な黒松と赤松が並び、当時から残る高山社のシンボル。

中庭

廃校後に高山家の方々が整備した中庭。野村稲が真っ白に染まる。

○石垣や竹垣が修復されているね。犬走りも再現されているよ。
どこかわかるかな？

○夏～秋頃には、フジバカマが咲花するよ。濃り蝶のアサギマダラも見られるかもね♪



マスコットキャラクター「300マニングン」

高山社跡の樹木・草花調査パンフレット（三つ折り）

6. 今後の課題

(1) 富岡製糸場の樹木・草花調査

世界遺産である富岡製糸場は、敷地内にある樹木も保存対象であることからいろいろな制限がある。昨年度の調査から、弱っている樹木が多いことを知り、薬剤の散布や適切な剪定などの必要性を感じていたが、実施することができなかった。富岡製糸場に限らず植物を適切に管理することで長く生き延びさせることができる。まずは、高校生の私たちが多くの人に現状を知ってもらい、植物と共生していることを再認識してもらえそうな調査研究・活動を取り入れていきたい。

調査だけで終わらずに、この結果から分かったことを多くの人に知ってもらえるように、私たちの調査結果をまとめたパンフレット配布や説明会などのPR活動を今後も継続していくことが重要だと思う。

(2) 高山社跡の樹木・草花調査

コロナウイルス感染症の影響で年間を通した調査は難しく、学校から距離もあるために多く足を運ぶことができなかった。高山社情報館では、植物を植えるなどの活動を進めているところだったので私たち草花部が協力できることがあると思うので今後も連携していきたい。

高山社跡は、復原工事の最中で、これからも復原が進むということだった。高山社跡の樹木ももしかしたら保存木以外の樹木が整理される可能性があると考え、さみしい気持ちになった。当時のように戻すのも重要だが、樹木は、そのときに生きていた人たちが意思を持って植えている。これまで歩んだ歴史も大事だと考えているので残して行ってほしい。今回の活動を通してもっと伝えていかななくてはならない。

7. まとめ

高山社跡の他に富岡製糸場と絹産業遺産群では、伊勢崎市の「田島弥平旧宅」・下仁田町の「荒船風穴」がある。この調査・研究を残りの2施設にも広げていきたい。しかし、距離的な問題もあるため調査時間が取れるか、調査の方法・関係機関との連携などを検討したい。「富岡製糸場と絹産業遺産群」が連携して相乗効果でさらに盛り上がるのではないかと考えている。

私たちは、コロナ禍で高校生活もいろいろな面で制限されてきたが、そんな中でも今回の調査研究に仲間たちと取り組めたことは、良い経験になった。人と人とのつながりやコミュニケーションの重要性、どんなことでも目標をもって向かっていくことの大切さを再認識できたと感じている。本調査研究にご協力いただいたすべての方々に感謝したい。

【参考文献】

- 富岡市教育委員会『旧富岡製糸場建造物群調査報告書』（白峰社・2006年）
- 富岡市教育委員会『史跡・重要文化財（建造物）旧富岡製糸場保存管理計画』（富岡市・2012年）
- 群馬県『令和元年度「富岡製糸場と絹産業遺産群」年報』（朝日印刷工業株式会社・2020年）
- 藤岡市教育委員会『高山社跡概要調査報告書』（藤岡市教育委員会・2009年）
- 高山社に学ぶ有志の会『農家と共に歩んだ高山社』（朝日印刷工業株式会社・2015年）

【参考Webページ】

- 日本交通公社『JTBF旅行者意識調査』<https://www.jtb.or.jp/research/20-01-003/>
- 富岡市『富岡製糸場ホームページ』<http://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>
- 藤岡市『高山社跡ホームページ』https://www.city.fujioka.gunma.jp/kanko_bunka_sports/bunka/2/2/3442.html